



第19回 日本腰痛学会

The Annual Meeting of the Japanese Society of Lumbar Spine Disorders

プログラム・抄録集



2011年9月2日(金)・3日(土)

さっぽろ芸文館

会長 佐藤 栄修 (医療法人社団我汝会えにわ病院)

第 19 回日本腰痛学会開催にあたって

佐藤 栄修

(我汝会えにわ病院整形外科 副院長)

第 19 回日本腰痛学会を担当させて戴きます北海道恵庭市の我汝会えにわ病院の佐藤栄修です。僭越ですが一言ご挨拶申し上げます。

この 2011 年は 3 月 11 日に発生した未曾有の大震災の影響が東日本のみならず全国に波及し、なかなか平穏が訪れない状況にあります。このたびの大震災で直接的、間接的に被害を蒙られた方々には衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。医療界でも多くの学会、研究会が通常開催の中止や延期の対応がなされました。そんな中、本学会を開催させて戴きますことを大変恐縮に存じますとともに、ひさしぶりに全国規模の脊椎脊髄病関連の学会を運営させていただけますことを誠に光栄に存じます。

さて、腰痛は運動器に関する訴えでもっとも多いものであり厚生労働省発表の国民有訴率でも常に一位を占めています。原因はさまざまで病態把握にも治療法にも確固たる基準がないものも少なくありません。本学会は発足当初からその解明に取り組みまもなく成人式を迎えます。この機会に『腰痛診療の未来を拓く』とテーマを設定し 3 主題を決めさせていただきました。60 歳以上の人口が 23% と超高齢社会を迎えた現在、加齢による代表的な運動器疾患である「骨粗鬆症」と「腰部脊柱管狭窄症」を取り上げました。骨粗鬆症による痛みには骨折由来のみならず姿勢の変化、サルコペニアといわれる筋萎縮の問題など複合因子の関与があります。その治療も薬物、理学療法や運動療法、あるいは手術的対処などがありますが、一定の指針が定まっていません。腰部脊柱管狭窄症は中高齢者の ADL のみならず良質な QOL を妨げる重大な疾患といえます。このたび日整会および日本脊椎脊髄病学会監修で診療ガイドラインが作成されましたが、まだまだ解明されなければならない問題が山積しています。この 2 主題に関しては二つのシンポジウムと一つのパネルディスカッションを組ませていただきました。さらに次の時代を担って貰うべき若年層を襲う腰痛にも一層の研究が必要であり、「若年期の腰痛」も主題といたしました。

また四つのランチョンセミナー、二つのイブニングセミナー、一つのモーニングセミナーを企画して気鋭の 7 名の講師の先生に新知見や研究成果をご発表いただけることとなりました。ここでは最高 4 単位の日整会教育研修講演単位が取得できます。

今回は 2 日間にわたり札幌の地で開催させていただきますが、全国的な酷暑が予想されるこの夏の終わりにすがすがしい気候と北海の幸を堪能され、これからの診療の英気を養ってくだされば望外の幸せと存じます。皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。